

第 18 号

発行

小松同窓会本部

〒923-8646

小松市丸内町二ノ丸15

石川県立小松高等学校内

同窓会報編集委員会

TEL・FAX (0761)21-6330

印刷 北勝印刷株式会社



特集

百周年記念に

向けて

母校の百周年にあたって

会長 徳田 八十吉

同窓生の皆様には、ご壮健にてご活躍のことと推察申し上げます。創立百周年の大きな節目に当たり、会長と記念事業実行委員長という大役を仰せ付かって、はや三年が過ぎました。まず最初に、母校に寄せられました皆様方のご厚志、ご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

本校では、大きな歴史の流れの中にあつて、その時代時代を創る優れた人材を輩出し続けて参りました。皆様の人生の中で、小松高校はどのような位置を占めているでしょうか。

この百年は、究極を求めている、壮大な実験の世紀であつたと思います。必然といわれた社会主義の崩壊、化学、物理学、医学等の驚異的進歩による、急激な社会の変貌、私の住む世界でも、印象派に依る変革で開幕した今世紀も、究極の美術といわれたアンフォルメルの変遷、そして、原点を問われる現代へと、新しい時期を迎えようとしています。「道の道たる可きは常道にあらず」をまさに地で行くような百年でありました。

我が国におきましても、皇国史観に始まり、人民の歴史を経て、史実に忠実であろうと試みる現代に至るまで、時代の流れに大きく影響され、あるいは反発を貫くなど、懸命に生きた試行錯誤の時代、

それが今まさに終わらんとしています。個人の場合もしかり、まして教育現場の混乱と苦悩は、筆舌に尽くしがたいものがあったと思います。この間の先生方のご労苦に対し、日本人の一人として深い感謝の念を禁じ得ません。

私たち四回生は、旧制最後の中学生として、昭和二十一年に入學、六年間現在の小松高校に在籍しました。統合された三校の校歌が歌える最後の生徒であり、新しくできた小松高校の校歌を歌った最初の生徒でもありました。私たちの前後数年間の在學生は、激動の百年、その中間点にあつて母校に学び、歴史の変動を身をもって経験するとともに、今世紀を展望できる絶好の時期を生かされてきました。高校時代こそ、それぞれの人生観が確立される貴重な時期だと思ひます。その重要性が年とともに身にしみて痛感されます。

記念の日『十月十日』が、刻々と近づきつつあります。メインである記念館の改修も、皆様の思ひ出と誇り、そして厚い母校愛に支えられ、復元か補修かの議論を重ねながらも、小松高校百年のシンボルたるべく完成の日を待っています。

また、在郷同窓生一同、各委員会を中心に皆様を小松の地に迎えるべく、一斉に準備を整えていますことをご報告申し上げます。各期におかれましても、この機に各種の企画があると聞き及んでいます。ぜひご来松の上、想い出を新たにされるとともに、二十一世紀へのスタートとさ

れますようお願いいたします。

『天守台』本号は、「百周年記念に向けて」の特集号ということで、記念事業各委員会からの現時点における作業の進捗状況の報告を掲載して、会員の皆様へのご案内といたしました。

また、本号は、一万五千部という、発行以来初めての大增刷をして、記念事業にご協力をいただいた方々を中心にお送りすることになりました。皆様方に少しでも私どもの感謝の気持ちが伝わればと願つてのことです。

◆ 記念館の蘇生

四月八日の地鎮祭に始まる記念館の改修工事は順調に進行しています。

一階の旧校長室・事務室、ならびに二階の三教室は、形をそのまま残して、資料展示室になります(資料展委員会の報告参照)。

一階左手の教室は、階段教室に改造されます。教室の広さや天井の高さなどに限界があつて、完全復旧とはいきませんが、可能な限りの復元を求めて、設計がなされました。いま、天井の嵩上げと、床の張り替えの工事が進んでいます。

収蔵庫は、正面奥に増築されます。約二十坪の空調完備の鉄筋コンクリート建です。母校に寄贈された、同窓作家の貴重な美術品の展示と収蔵に使用されます。十月上旬には、「ピンクの館」が彩りも鮮やかによみがえります。

(特別事業委員会 徳田八十吉)

〈追記〉 この特別事業では、記念館周辺の卒業記念樹剪定等の環境整備事業も実施されます。

【記念館落成式】

10月8日(金) 9時から  
新 記念館の落成式を行います。また、翌9日の10時から、階段教室を使用しての特別講義が左記要領で開催されます。ぜひご来場下さい。

〔特別講義〕

「懐かしの名講義を聴こう！」  
講師  
墨田迪彰先生(中学41回)  
「小松の水環境を考える」  
吉田三郎先生(中学42回)  
「壮絶の別れ……芭蕉と北枝と」

◆募金目標二億円突破

創立百周年の具体案が決定して以来、ここ数年間は景気の回復の兆しもままならず、今日に至っております。

この時期、記念事業募金目標額二億円という大募金の大任をあずかり、果たして実現が可能であろうかと、日々その重さを痛感しております。年始めの『天守台』十七号

では、募金状況は目標額にはまだ遠いと報告申し上げましたが、五月に入り、目標額に達成、突破、という嬉しい報告を聞き、ほっと安堵の胸をなでおろしている次第です。これもひとえに多くの皆様方が募金の趣旨をよくご理解下さって、ご賛同をいただいた賜と、心より感謝とお礼を申

百周年各種行事のスケジュール

- 10月8日(金) 記念館落成式 9時～ 於小松市役所前  
 県立高女記念碑除幕 10時～
- 10月8日(金)～14日(木) 百周年記念文化祭  
 今年例年(9月)よりも約1ヶ月ずらしました。生徒たちも張り切っています。
- 10月8日(金) 美術展 於市民ギャラリーフレ  
 資料展 於記念館
- 10月9日(土) 特別講義 10時～ 於記念館  
 音楽祭 15時～ 於こまつドーム
- 10月10日(日) 講演会 10時～  
 式典 11時30分～  
 祝宴 13時～ 於こまつドーム
- 10月11日(月) ゴルフコンペ 6時30分～ 於片山津ゴルフ倶楽部  
 茶会 8時30分～ 於芦城公園内玄庵

◆百周年記念名簿印刷開始

小松同窓会は、石川県第四中学校創立から百年、国の内外で、様々の分野で活躍する幾多の人材を送り出して参りました。その輝かしい歴史と伝統を育んできた同窓会会員の、友情と連帯の絆を結ぶ百周年記念名簿の発刊に向けて、簿委員に点検と確認をお願いし、九月発送を期して八千部の製版印刷を開始しました。さて、九十周年記念事業の一環としてコンピューターが導入され、それ以降に加わった四一〇六名を含めて三〇〇九四人のデータが入力されておりましたが、十年の間に住所を変更された会員や故人

◆小松高等学校百年史

『百年史』は、「通史編」(約九百頁)・「回想編」(約三百頁)二巻一括で刊行します。「通史編」は、百周年記念の刊行を予定して、高校教職員による委員会が組織され、数年前よりその資料収集が開始されました。現在、委員の先生は数人に絞られ、授業のかたわら、苦しみながらも執筆に情熱を込めておられます。

「回想編」では、同窓会員より八人の委員を選び、校種別に役割を分担して、会員から回想原稿を募集する一方、写真等の資料収集などに努めてきました。

ここでは、同窓生の「思い出」をつなぎあわせて、「通史」の行間を埋める学校生活の記録を目指し、あの頃の喜怒哀楽、汗の匂いがよみがえるような世界を構成したいと思っております。

また、『小松高校新聞』および戦前戦後の『白峯(峰)』のCD復刻化も行い、貴重な学校資料の永久保存化に努めていきます。

(編集委員長 井口哲郎)

し上げます。

今秋の母校創立百周年記念の行事には、多くの皆様方のご出席と、母校の同窓生としてのさらなる親睦と団結を願っております。

(募金委員長 堀口外茂雄)



平成九年一月名簿委員会が組織されました。同年十一月より予備調査を開始し、募金趣意書発送にあわせて全会員に名簿記載事項の確認をお願いし、転居先不明や宛先不明による返却分については、一年にわたり追跡調査を行いました。平成十一年五月三十一日現在の会員名簿として各期名

とられた会員など数千名に及びました。今回は、六三八一名の入力訂正を行い、百周年記念名簿とさせていただきます。この二年間、より正確な名簿発刊をと、ご協力いただきました名簿委員並びに会員の皆様にお礼申し上げます。

(名簿委員長 西 紀幸)

◆ 記念音楽祭

当初クラシック音楽を考えていましたが、それに勝るとも劣らない、素晴らしい方を迎えることができました。題して「小椋佳歌談の会」です。

小椋さんは東大法学部卒業後日本勸業銀行（現 第一勸業銀行）に入行、本業のかたわら作詞、作曲、演奏の音楽活動も始め、「さらば青春」「シクラメンのかほり」など多数のヒット曲を生み出しました。その後、東大法学部政治学科、文学部哲学科に再入学、卒業後も大学院に進みながら、舞台制作、音楽活動と多忙な毎日を送っておられます。

今回も歌の間にエスプリに富む、ユーモアあふれるお話が入り、それも聞き所です。10月9日、こまつドームにて14時開場、15時開演です。入場券は千円で各期常任理事、音楽祭実行委員、同窓会事務局にあります。

「小椋佳さん父子の感動的なドキュメンタリー放送を見た。脳梗塞の後遺症に苦しみながら琵琶制作に生き甲斐を見出していく息子さんと、それをあたたかく見守り、自身もエリートサラリーマンから

一学徒へと大転身を果たす小椋さん。二人が一緒に琵琶を演奏する柔らかなひとときの情景に胸が熱くなるのを覚えて羨ましさすら感じる父子の姿であった。

その小椋さんの歌談の会が、創立百周年を記念して催されるという。やわらかな歌声とすがすがしい生き方に触れられるのを楽しみに待っている。（矢原珠美子・小松市教育長・元本校教頭）

また、10日の式典では、指揮者で作曲家の山本直純氏に作曲を委嘱した「祝典序曲」が、本校吹奏楽部により演奏されることになっています。これも聴き逃せません。（音楽祭委員長 勝木育夫）

◆ 記念講演

「日本の心 茶の心」

講師 裏千家15代家元

10月10日（日）10時  
於 こまつドーム  
鵬雲斎千宗室氏

百周年にふさわしい講師の先生をお迎えしたいとの思いから、千宗室氏に講演をお願いいたしました。

先生は、小松とはとても縁の深い方です。かつて千利休居士の第4代

仙叟宗室居士は、小松城主前田利常侯よりこの地に茶道茶具奉行として招聘され、城中三の丸（現在の芦城公園）に屋敷を賜り、茶道文化発展に寄与されたということです。そして、平成6年、仙叟居士三百年遠忌に当たり、現15代千宗室先生がゆかり深いこの地に茶室玄庵を造営され、平成9年に、小松市へ寄贈されましたこともあって、小松市の名誉市民となりました。

小松高校が創立以来、その小松城址に建設されていることはとても意義深く、由緒ある芦城の一角が、新世紀へ向けての文化の発信基地としての役割を担うことを念じつつ、茶道を通して、日本の心についていっしょに考えてみませんか。（講演会委員長 中出和子）

◆ 式典委員会から

10月10日（日）午前10時よりこまつドームにて、講演会・式典・祝宴の順で百周年記念行事が行われます。式典は、厳粛なうちにもスムーズな進行で、一時間という決められた時間で行われるよう、企画いたしております。

また、百周年記念としての

◆ お茶会のご案内

10月11日（月）8時30分  
於 仙叟屋敷「玄庵」

当日は、百周年記念の一環として、美術展、資料展が開催されております。各展覧会をご覧になりながら、また、天守台への「青雲の小径」を散策されながら、ぜひお立ち寄りくださいますようお願いしております。

◆ 記念祝宴会のご案内

10月10日（日）、記念式典終了後、午後一時より記念祝宴会を開催します。参加費は二千元（前売り制）です。入場券は各学年の常任理事の方々にお預けしてあります。多くの方々のご参加をお待ちいたしております。

なお、式典、祝宴に関しては、バスによる送迎を手配しております。発着の場所・時刻等に関しましては同窓会事務局までお問い合わせ下さい。

小松同窓会事務局  
TEL 0761-21-6330  
〒923-8646  
小松市丸内町二の丸15  
（祝宴委員長 上出雅彦）

◆ 記念美術展について

小松高校百周年記念行事として、十月八日から十四日まで一週間にわたり、芦城公園内ルフレにおいて美術展を開催します。

具体的な展示の計画・実行に関しては、吉田美統展示委員長（高校3回）のもと討議を重ね、書道・日本画・洋画・工芸・彫刻・写真の六部門の展示を行うこととなりました。出品点数は合計八十点余りとなる予定です。また、図録を二千部作成し、会場で販売することとなっています。ご意見・ご要望があれば同窓会事務局

局までお寄せ下さい。

立派な美術展になるよう委員一同張り切っております。

なにとぞ開催期間中には、会場ルフレに歩を運ばれて、先輩、後輩の方々の力作を鑑賞下さいますようお願い申し上げます。

委員一同心より皆様方の来場をお待ち申しております。(美術展委員長 宮西すゞ子)

◇百歳になりました

校種別、時代区分を超え、同窓生すべてが共通して胸に刻んでいる「青春普通の姿」を四つのテーマから展示していきたくと考えています。題して「百歳になりました」

○展示室1「青春の汗」

光への挑戦

部活動―一生懸命に、時には悩みながら、しかしいつの日も前向きに励んだ部活動。そうしてつかんだ栄光の証しや残された足跡の数々。

○展示室2「青春の志」

真理への憧憬

学習活動―不滅の真理を求めた日々、勉学への情熱を傾けた日々。そこには個性豊かな先生たちとの出会いもあった。教科書や授業内容からさまざまな光景が思い出される。

○展示室3「普通の礎」

自由への情熱

学校行事―生徒会活動、記念祭、ポートレース大会。綿々と流れる自由な校風、自主性を重んじるることによって育まれた多彩な行事から、創造的で個性的な営みの足跡をたどる。

○展示室4「永遠のふるさと」

同窓会活動と資料閲覧サロン

同窓会全体および各年代、各地域でのさまざまな同窓会活動の紹介。卒業アルバム、卒業記念文集などを常備し、小松高校新聞CD-ROMや映像記録などとともに閲覧もできるようにしたい。

以上物品や資料の展示のほか、百年を整理したパネルなども製作したい。記念行事終了後の常設展示を見越して、だれがいつ見てもフレッシュな気持ちになれるような、明るい展示を目指しています。なお、数多くの貴重な資料のご提供をいただきました。常設展示以外の資料は、会期中、特別展「思い出の掘出し展」として展示したいと考えています。(資料展委員長 江口介一)

「県女此処にありき」

(石碑建立について)

西暦一九九九年、即ち平成十一年の十月十日は、小松高校創立百周年にあたり、盛大な記念行事が企画され、実行されようとしております。私達がこの百周年記念に参加できますことは本当に嬉しい限りでございます。

県立高女は学制改革とともにその名は昭和二十四年以降消え、小松高校として統合されることになったのです。しかし県女の人達の中には、現校舎に一步も足を踏み入れたこともなく現在に至っている人も少なくありません。

私達の脳裏に思い浮かぶのは、入学と同時に乙女心を膨らませて校門へ一步踏み入れた時の、ポプラ並木に囲まれた木造二階建ての校舎です。決して立派な建物ではありませんでしたが、これからの青春時代の四ヶ年通う学舎として、心浮き浮きの学校でありました。あの学舎で勉強された方は一体何人いられたのかと思ひ、調べてみました。大正二年卒業の方から昭和二十三年卒業まで約三千名で、詳細は二九六名という数字

でした。この卒業生の方々は向学心に溢れ、それぞれ我が道に進まれたことと信じております。

しかし残念なことにはこの思い出多き校舎は今も跡形もなく消え失せ、現在するべくなるものは白楊幼稚園のみであります。県女としては母校を恋ふる念は強く、何とか跡地に記念碑の建立はできないものかとの声が大きくなりました。皆様方の熱意は日増しに強くなり、何としても石碑をと矢の如く催促を受けました。そこでこれを百周年記念事業として取り上げてもらえないものかと考え、委員長会議に提案いたしましたところ、徳田会長はじめ各委員長さん方のご理解をいただき、遂にご承諾を得ることができました。ここに記念碑建立の念願が実現することとなりました。

土地は現在の市役所に位置していましたが、使用については西村市長に懇願いたしましたところ、これも快くご承諾下さいました。

「県立高女、此処にありき」多くの方の夢が実現することになったのです。

これは多数の方々の御厚意によることはもちろん、県女

の方々のご芳志の賜と厚くお礼申し上げますと同時に、お互い喜び合いたいと思います。皆様本当にありがとうございます。

九月初旬には、市役所の前、白楊幼稚園の横に、ピンクの大理石の記念碑が建つ予定でございます。是非ご覧下さって子やお孫さんに、「わたしたちの女学校はここにあったのよ」と声を大にして言っておいて下さい。本日に県女の皆様おめでとうござります。

(宮西すゞ子 県女21回)

【県立高女記念碑除幕式】  
日時 10月8日(金)  
10時

場所 小松市役所前  
(白楊幼稚園横)

各地区同窓会の声

「関東小松同窓会」

会長 白江 治彦

昭和三十年、高校二年の約一年間週末に上京し、囲碁の総本山である日本棋院でプロ棋士を目指して修業しておりました。

金曜日の授業の後小松駅か

ら急行で上京。土曜と対局、月曜の朝出迎えの親父の自転車に乗ってそのまま学校へ。まだ空路のない時代、片道十二時間の夜汽車の旅はハードでしたが、気合いが入っており、充実の二日間でもありました。

先生には申し訳ないのですが授業中は教科書の下に基の本を置き、先生に当てられると周りの親友の助けを借りるという毎日。ある日英語の先生にバレ、通信簿はスツコケ。しかし毎週休んでいた土曜の体育の授業は、先生の恩情でレポート提出で単位取得。

今思い出すに当時すでに進学校でしたから、大学ねらいの仲間は勉強にそれなり、ストレスもあつたでしょうが、私には実に楽しい学園生活でした。

三年生をキャンセルし東京での修業に専念、私より年下で東北や九州の少年チャンピオンなど全国の天才が百一名もいる中、わずかに三人の中にはいることができました。

その後の長い棋士生活の中で私が誇れるのは、このワンチャンス入段と多面打ちの世界記録を持っていることです。銀座での百一面打ちが始まっ

てパリなどでも行い、現在二百三十面打ちを記録更新中。高一の時教わった橋本元校長とはよく対局し、免状を推薦申し上げたことも楽しい思い出です。

東京以来四十年間、高校の同窓会が大きな楽しみの一つになっていた昨今、はからずも関東地区会長の大役が舞い込み驚いております。

しかし本部の徳田会長のもと、素晴らしい百周年を迎えられますこと、確信しております。

小松高等学校の末長く幸あらんことを……(高校8回)

「関西小松同窓会」

会長 宮崎 一也

小松高校創立百周年誠にめでとうございます。

一世紀の歴史と伝統に輝く学舎を母校としている喜びと誇りを関西の地から、全国の諸兄弟共々心から寿ぎたいと思います。

さて、誌上をお借りして関西小松同窓会の紹介をさせていただきます。

当会は昭和六十一年、母校が全国高校野球選手権大会に石川県代表として出場したことを契機として発足しました。

進学校として名を成しているも、我が小松が甲子園に出場するなんて、夢のまた夢だっただけに同窓生は燃えに燃えました。特に甲子園に近い関西在住の同窓生は、何を置いてもとアルプススタンドへと駆け付けたものです。

久しぶりに応援席で顔を合わせた友、肩を組み校歌を斉唱した感激、この感激の中から、俺は小松だ、君も小松から、また会おう、同窓会を作ろうじゃないかと友から友へ、先輩へ、後輩へと、関西在住者の小松高校同窓会設立の機運が広がりました。中でも、同窓生の把握や、準備会の運営には各期ごとの幹事役有志の熱意と献身的な活動がありました。

翌六十二年、小松から校長先生、同窓会長をお迎えして、創立総会を大阪のホテル・シェラトンで盛大に開催しました。以後三年ごとに大阪市内で開催し、去る二月には第六回の総会を開催しました。

その間、平成八年には阪神・淡路大震災、罹災同窓生激励を兼ねた総会を開催、連帯と相互扶助、懇親、の実をあげました。

また、総会以外に、期毎の

結束も固く、旅行、ハイキング、ゴルフ、カラオケなど頻りに開いている期もあります。

現在会員数は二千名を超えますが、二十代～三十代の方の把握もれが考えられ、百周年記念名簿の刊行を機に、関西在住同窓生全員の把握に努め、広く、強い絆の会にしたい。そして、関西から母校の発展に寄与していきたいと考えています。

最後になりましたが、名門小松が、私たち同窓生の血を沸かせるように、文武両道にわたり活躍し、益々発展されますよう祈念いたします。(高校8回)

「東海小松同窓会」

会長 山上 孝俊

小松高校創立九十周年を記念して発足しました東海小松同窓会は、今年で十一周年を迎えます。この間、約三年周期で総会を開催し、昨年十一月には第四回の総会を盛況裡に終了することができました。

昨年の総会時点での会員は、愛知県三五三名、岐阜県六五名、三重県四一名の計四九五名です。

より多くの会員に参加いただき、同窓の絆を通してこの

地域での生活に豊かさや潤いをもたらすきっかけになればと、役員一同総会の企画運営に工夫を凝らしました。

第四回総会ではようやく会員間の交流が活発になり、出席して良かったという声も多々いただけるようになりました。

同窓会が発足するまでは、この地に何年も何十年も住みながら、全く交流の機会がなかった会員が大多数でしたが、同窓会を契機に、いろいろな交流ができ、またいろいろな交流の提案企画もいただき、それがまた総会を盛り上げて有意義な会となりますことを念願いたしております。

小松高校百周年を迎えて、各地区の同窓会が益々発展し、交流も活発になりますよう東海小松同窓会も一役を担わねばならないと思っております。皆様のご支援のほどよろしくお願いいたします。(高校10回)

「富山小松同窓会」

牧野 新一

平成三年十一月、原谷敬吾会長(北陸電力物相談役)が県内在住者約二百名に呼びかけ、富山の「海老亭本館」でめでたく富山小松同窓会の設

立総会をいたしました。

同窓会は隔年で富山全国チンドン祭に開催を重ねてきましたところ、突然大先輩である原谷会長が、去る一月二十二日、富山中央病院で逝去されました(享年八十七歳、中学26回)。

今秋の小松高校創立百周年記念事業を目前にして亡くなられたことは、ご本人にとってもさぞかし心残りだろうと思います。

三月三日は北陸電力の社葬で、政財界の方々約二千人が参列して功績をしのびました。富山小松同窓会の設立の時から、会長として同窓会活動に尽力為されましたことに感謝すると共に、心より冥福をお祈りします。

残された支部同窓会一同は、早急に新しい支部会長を決め、本部のご支援を得ながらお互いに連絡を密にし、誠心誠意をもって同窓会活動の体制を作りたくと考えていますので、どうか温かいご指導とご協力をお願いいたします。

(中学37回)



〈各期同窓会開催一覧〉

○中学26回 10月9日

粟津温泉「のとや」  
(百周年記念大会の前夜祭としてクラス会開催し、十日の記念式に乗り込む計画です。)

○中学31回 10月10日

「小松グランドホテル」  
(参加希望者は本号ご覧後折り返し一報ありたし。)

○中学34回 10月10日

伊東清雄  
粟津温泉「ホテル雲井」

○中学35回 10月9日

粟津温泉「喜多八」  
(鈴木重雄・福島幸次)

○中学36回 10月9日

粟津温泉「ホテル雲井」  
(卒業以来60年、古希を迎えた人、超えた人、齢を感じるこの頃ですが、母校百周年を喜びとして、一人でも多くの参加を願っています。)

○中学37回 10月9日

神崎孝次  
粟津温泉「法師」

○中学38回 10月12日

後藤長平  
「あわづグランドホテル」  
(内藤幸一・橋本茂雄)

○中学40回 10月9日

粟津温泉「かみや」  
(卒業以来50有余年の星霜

を語り合いました。 三井

淑朗・木内邦彦・藤野忠男  
○中学41回 10月9日

「山中グランドホテル」  
(永井宏明)

○中学42回 10月10日

粟津温泉「はしもと天翔閣」  
(達 忠志)

○中学43回 10月9日

粟津温泉「辻のや花乃庄」  
(藤田栄進)

○中学47・高校2回 10月9日

辰口温泉「たがわ龍泉閣」  
(林正勝・川崎俊雄)

○県女25回 10月9日

粟津温泉「法師」  
(北村利子)

○県女27回 10月9日

粟津温泉「法師」  
(関戸とし子)

○県女28回 10月9日

粟津温泉「法師」  
(白楊同窓会に合流します。)

○県女32回 10月9日

清水千恵・橋喜久重  
粟津温泉「法師」

○県女34・35回 10月9日

永井久子  
粟津温泉「法師」

○県女36回 10月9日

浜野光代  
粟津温泉「法師」

○県女37回 10月9日

伊勢純江  
粟津温泉「法師」

○県女関東部会 10月10日

粟津温泉「法師」  
(太田寿美江)

○市女9回 8月25日

「小松グランドホテル」  
(東川綾子)

粟津温泉「もりもと旅館」  
(亀田千里)

○市女15回 8月18日

「サンピア小松」  
(泉たえ子)

○市女19回 10月10日

粟津温泉「辻のや花乃庄」  
(百周年の記念行事に参加できるご縁を喜び、同窓会でお会いしましょう。)

○高校3回 10月10日

山口富美子  
粟津温泉「法師」

○高校4回 10月9日

粟津温泉「法師」  
(百年の下真ん中が我らの高校時代。よき混乱期を語り合おう。)

○高校5回 10月9日

湯浅幹也・勝木俱子  
粟津温泉「金閣」

○高校6回 10月9日

酒井章二郎  
粟津温泉「辻のや花乃庄」

○高校7回 10月9日

清水郁夫・橋本俊映  
「あわづグランドホテル」

○高校8回 10月10日

八田幹也  
粟津温泉「法師」

○高校9回 10月10日

「あわづグランドホテル」  
(宮西勉夫・橋本紀之)

○高校11回 10月10日

山代温泉「ゆのくに天祥」

(西紀之・宇都宮一夫)  
○高校12回 10月10日

片山津温泉「せきや」  
(岩田 浩)

○高校13回 10月9日

山中温泉「すずや今日楼」  
(西田大昭)

○高校14回 10月10日

辰口温泉「たがわ龍泉閣」  
(物故者法要一同日17時、於辰口誓立寺。清丸亮一)

○高校16回 10月10日

粟津温泉「法師」  
(酒井隆・太田征義)

○高校18回 10月9日

粟津温泉「喜多八」  
(佐々木均)

○高校19回 8月13日

山代温泉「山水館」  
(中川英治)

○高校20回 8月14日

粟津温泉「のとや」

○高校22回 10月10日

(夕刻より日帰りの懇親会を計画。)

○高校23回 10月10日

岩倉成利  
粟津温泉「おびし荘」

○高校29回 10月10日

粟津温泉「湯ノ上」

〈備考〉6月30日までに連絡のあったものを掲載しました。※印は日帰りの会です。(編集係)





# 記念ゴルフコンペ参加者募集

平成11年10月11日(月)

片山津ゴルフ倶楽部

(加賀市新保ト1-1 ☎(0761)74-0810)

募集人数：400名

参加費：7,000円 記念品(校章、個人名入り百周年記念特別製ネームタッグ)、賞品代及び懇親会費は含みますが、プレー費等は各自でご清算をお願い致します。

片山津GCのご好意によりグリーンフィは特別割引料金になります。

競技方法：18ホールズストロークプレー(Wペリア方式採用)

表彰式及び懇親会：プレー終了後、倶楽部ハウス2Fにて開催致します。

参加資格：小松同窓会会員及び特別会員ならどなたでも結構です。

申込方法：下の申込用紙を切り取り、FAXもしくは郵送をお願い致します。

なるべく学年単位あるいは友人同志、組(4名)単位での申込をお願い致しますが、個人での参加も歓迎致します。

### 1：組(4名)単位での申込の場合

- ① 申込用紙にご記入の上、FAXもしくは郵送をお願い致します。
- ② 折り返し参加費振込用紙とエントリー用紙をお送り致します。
- ③ エントリー用紙に組合せを記入の上、返送願います。

### 2：個人での申込の場合

- ① 申込用紙にご記入の上、FAXもしくは郵送をお願い致します。
- ① 下記へ参加費7,000円の振込をお願い致します。

郵便局 \*00790-6-45409 小松高校百周年記念ゴルフ委員会

★ 参加費の返却は致しませんが、9月10日までの参加者変更は可能です。

申込先：小松同窓会事務局 ゴルフ委員会 (FAX番号 (0761)21-6330)

小松市丸内二ノ丸15 小松高校内 (電話でのお申込はご遠慮願います)

締切日：8月20日 必着



## 小松高等学校創立百周年記念ゴルフコンペ参加申込書

○印をお付け下さい。

1：組(4名)単位での申込		→ 申込組数	組	2：個人での申込	
幹事(個人の場合は本人)氏名			(	回卒業	
幹事(個人の場合は本人)住所			〒		
電話番号		FAX番号			



### 小松高校 部活動の記録

今年は何れ百周年を盛り上げるかのように、現役高校生も各種大会で輝かしい成績をおさめています。野球部は春の県大会に3位入賞し、16年ぶりの北信越大会への出場を果たしました。

#### ◇主な記録◇

##### 野球部

\*春の県大会 3位

\*北信越大会 (6/5) 7

1回戦

小松一福井商 (8-1)

2回戦

小松一高岡商 (10-5)

3回戦

星稜一小松 (9-2)

##### 相撲

\*第83回高校相撲金沢大会 (5月23日)

団体1回戦

小松一新宮 (2-1)

先鋒 土山 (2年)

中堅 平野 (2年)

大将 安地 (3年)

2回戦

小松一富山水産 (2-1)

3回戦

小松一福野 (1-2)

個人戦 (決勝リーグ進出) 安地君出場

##### 男子バレー部

\*春の県大会 (4/24) 29

準々決勝

小松一県工 (2-1)

準決勝

小松一星稜 (2-1)

決勝

小松一小松工 (2-0)

(49年ぶり2回目の優勝)

#### \*高校総体県大会 (6/4) 6

準々決勝

小松一泉丘 (2-0)

準決勝

小松一金商 (0-2)

(3位入賞北信越大会出場)

北信越大会出場

山岳部、テニス部、空手部

水泳部、ボート部、カヌー部、陸上部

全国高校総体(岩手県) 出場

決定

カヌー部 (7名)

ボート部 (8名)

陸上部

男子110Mハードル

東出 孝志 (3年)

女子100M、200M

河崎江梨子 (3年)

(県大会女子100M大会新記録)

全国高校総体(山形県) 出場

決定

剣詩舞部門

貝田佑希子 (2年)

囲碁部門

村井 達暢 (2年)

百周年記念に向けての特集号とし、募金に応じて下さった

会員の皆様方全員へ、直接発送させていただくことにしました。

この会報を初めて手にされた会員の方もいらっしゃることと思います。そのあたり

の事情説明をひとつ。

小松同窓会会報『天守台』

は、小松高校創立九十周年を機として平成三年一月に創刊

されました。その当時はまだ

名称も決まっておらず、会員

に募った結果、『天守台』として発行されるようになった

のが、平成六年七月の第8号からでした。

その間、宮崎榮氏(故人、

中学33回)、井口哲郎(高校

3回)編集委員長のもと、不

十分ながらも、会員の声や同

窓会活動の紹介、学校の現況

などのPRに努めてまいりました。

あらためて創刊号から目を

通していくと、『天守台』は

いかに多くの会員のお力添え

により支えられてきたのか、

との思いを強く感じます。そ

れはあたかも、幾百年の風雪

にもびくともせずガッチリと

組み合った、あの『天守台』

の堅平な石組みのようです。

その力を今度は秋の百周年

に結集させていこうとの願い

のもと、第18号を編集しまし

た。これを機会に他の会員の

方へも、「こんなものがある

よ」と呼びかけていただけ

ば幸いです。

(同窓会報編集委員一同)

委員長

井口 哲郎(高校3回)

委員

安田進一郎(中学45回)

浜野 光代(県女35回)

福島 房江(市女19回)

中田 武太(高校8回)

野田 洋子(高校12回)

杉永 信幸(高校18回)

益本 周(高校30回)

同窓会事務局

埴田 勉(高校4回)

村井 恭子(高校32回)

学校職員

吉田 洋三 酒井 隆志

小倉 梯子

#### 第19号の原稿募集

◎切 平成11年10月31日

◎内容 自由(六百字程度)

◎送先 〒九三三-八六四六

小松市丸内二ノ丸15

小松同窓会事務局宛

◎発行 平成12年1月



本部だより

◇同窓会報第18号をお届けします。今回は来る10月の創立